



## 努力はたし算、協力はかけ算

今朝10日(木)は、ムラサキ朝会でした。今月の生活目標は「友だちと協力して学校生活を送ろう」です。私の方からは、子供たちに次のような話をしました。

協力の「協」の字は「十」は「多くのものを集める」ことを表しているの、「協=多くの力を集めている」という意味があることを説明しました。

本を一日3ページずつ読むと、 $3+3+3=9$ ページとなり、100日間続けると300ページになります。これは、自分の力となり、「🔴帯西レッド」の心が伸びます。また、力を合わせる場面として、新聞係の話をしました。学級新聞を一人で作ろうとすると時間がかかります。しかし、何人かで協力して作ることで、時間が短縮されるばかりか、一人では思いつかないことも、みんなのアイデアでよりよいものが生まれます。これはみんなの力となり、「🟡帯西イエロー」の心が伸びます。このように友達と協力することで、3人が2ずつ頑張ると、 $2\times 2\times 2=8$ となって、 $2\times 2\times 2\times 2=16$ となるのです。つまり、人数が多くなればなるほど、結果が大きくなります。しかし、かけ算の落とし穴として、一人でも協力しない人がいると、 $2\times 2\times 0=0$ となってしまい、さらに力を出し惜しみすると、 $1\times 1\times 1=1$ となり結果が変わりません。

企業では、協力して仕事の効率を上げることを「シナジー効果」と呼んでいるそうです。この効果を上げるために、①チームの目標をはっきりさせること ②話し合いを取り入れることを意識しているようです。これを学校に置き換えると、①は、本校にある「4つの心」を取り入れた学級目標の達成を目指すために、学級でどんなことをすればよいのか考えて協力して行動すること、②の話し合いでは、自分の意見をもって発表し、友達の意見にも耳を傾けることで新たなアイデアが生まれてくることを説明しました。そして、「協」の実現のためには、自分の「1」以上の力を発揮し、一人一人が普段の生活(学習面・生活面等)を見つめ直していくことの大切さを伝えました。

みんなが協力し合ってよりよい学級や学校をつくることで、「🟡帯西イエロー」とともに活躍する子供たちになると思います。



全委員長会議の様子。ここに目指す「協力」する姿が集約されている

## 英語で熊本弁

「英語で熊本弁」という本があります。今は熊本弁さえも分からない世代が増えていますが、それを英語で英訳してあるのが面白いと思いました。いくつか紹介します。

「あとぜき=keep the door closed later」「ううばんぎゃ(大雑把、いい加減)=careless」「すーすーすっ=chill」「すびく(かじかむ、寒さが身に染みる)=numb」などです。最後私の祖母がよく使っていた言葉「のううっだす」です。これは、「(脳が飛び出すほど)すごく、最高潮に頭に血が上る」という意味です。文例として…

Yesterday's school-wide hide-and-seek was extremely entertaining.

(昨日の全校かくれんぼは、のううっだすごつ面白かった。)となるのでしょうか。